



三珠中学校校長室だより
令和7年5月27日発行
No.8
文責 校長 渡邊 康裕

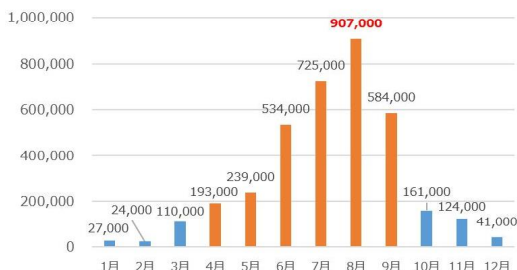
三珠中HPはこちらから！



雷から身を守るために知っておいてほしいこと

5月も最終週に入って、どんよりした雲が空を覆う日が増えてきました。

全国月別落雷数（2014年～2024年の10年平均）



た。梅雨入り間近となったこの時期、上のグラフの様に大気の状態が不安定となり、雷の発生が増える時期でもあります。▼今年4月、奈良県奈良市の学校グラウンドに雷が落ち、中高生6人が搬送される事故が起きました。学校の発表によれば、午後5時50分頃に小雨が降り始め、一旦やみ、強い雨が降り始めた直後に落雷があったとのこと……。事故発生時はサッカー部など複数の部活動の生徒100人以上が現場にいて、3人が入院、内1人は依然として意識不明の状況が続いています。このような痛ましい事故は、いつどこで起こるか予想ができませんが、それに対しての精一杯の備えをしておくことは学校の義務だと考えています。そこで、今回の学校便りでは、『雷から身を守るために知っておいてほしいこと』をお話したいと思います。▼まず、自分の身を守るために落雷・竜巻等が起こる予兆を知っておくことは重要です。気象庁のホームページでは、次の4つを落雷・竜巻等の予兆として注意するよう呼びかけています。①真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。②大粒の雨や雪（ひょう）が降り出す。③雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。④



1つでもあれば、安全な場所（車の中・建物）に移動

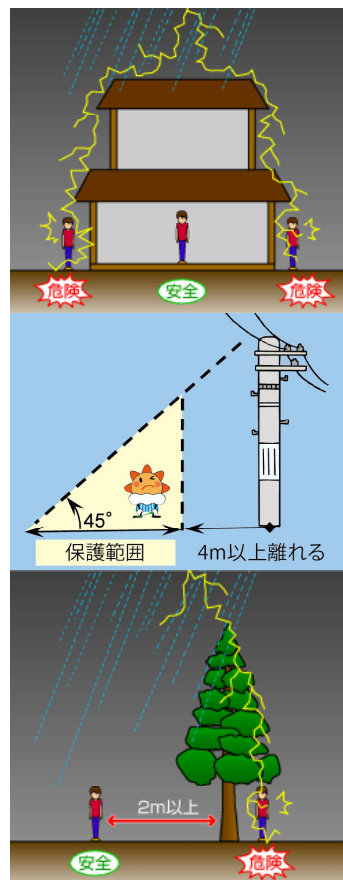
ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。

▼次に、これらの予兆

が見られたとき、どのような行動を取れば自分の身を守ることができるのかのお話です。校内にいる時は、原則、先生の指示に従い、速やかに屋内に避難しましょう。登下校中や学校以外の屋外の活動中についても原則は安全な場所へ避難することです。ここでいう安全な場所とは、建物の中、自動車・バス・電車の中のことです。グラウンドの様な開けた場所は人に落雷しやすくなっています。危険を感じたらすぐに安全な場所へ移動す



るようにならなければなりません。軒先や外壁の近くは雷の通り道になるので避けましょう。▼近くに安全な空間がない場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ（保護範囲と言います）に避難します。▼高い木の近くは危険ですから、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物があれば体より高く突き出さないようにしてください。もしも自転車に乗っていたら、すぐに降りて安全な場所に避難します。▼行動の再開は、雷鳴が止んでから30分程度は落雷の危険があることから30分は様子を見てからにしま



しょう。▼ここまで、たくさんのことを書きましたが、1つしかない大切な命を守るのに重要なのは生徒の皆さんの自主性です。ここで紹介したことをしっかり頭の中に入れ、いざという時に正しい行動をとれる力をつけてほしいと思います。▼今年度、三珠中では*雷ナウキャストを利用して生徒が安全に屋外での活動を行えるようにしていこうと考えています。*雷ナウキャストは、気象庁が提供するリアルタイムの雷情報ツールです。このツールを使うことで、いつどこで雷が発生しているのかを簡単に把握できます。



雷鳴ったらこれだけは

- 1 広場から離れる、木に近づかない
- 2 雷の音が聞こえたら建物や車に避難
- 3 最終手段は「雷しゃがみ」